

平成 29 年度水俣病経験の普及啓発セミナー 水俣病の経験を引き継ぐために

2018 年 1 月 13 日(土)

13:00 ~ 16:20

会場：東京ウィメンズプラザ・ホール
(東京都渋谷区神宮前 5-53-67)

主催：環境省

募集人数：150 名・参加費：無料

- 13:00 ~ 開会挨拶 環境省環境保健部特殊疾病対策室
13:05 ~ 水俣病に関する水俣条約の実施に向けて
環境省環境保健部水俣対策推進室
13:20 ~ 語り部講話
杉本 肇氏(水俣市立水俣病資料館 語り部)
小武節子氏
(新潟県立環境と人間のふれあい館 語り部)
14:05 ~ 音楽演奏(もやい音楽祭受賞作品)
萩嶺浄円氏(もやい音楽祭実行委員長)
受賞者：坂本しのぶ氏、加賀田清子氏
演奏者：柏木敏治氏、山下貴代美氏
14:35 ~ 朗読
(一社)水俣病を語り継ぐ会
吉永理巳子氏、吉永利夫氏、大津円氏、
長迫由希子氏、岩井美咲氏
15:10 ~ 休憩
15:20 ~ パネルディスカッション
水俣病の経験を引き継ぐために
コーディネータ：
吉永利夫氏((一社)水俣病を語り継ぐ会 理事)
パネリスト：
杉本 肇氏(水俣病資料館語り部の会 語り部)
徳富一敏氏(もやい音楽祭実行委員会 事務局)
岩井美咲氏((一社)水俣病を語り継ぐ会 賛助会員
水俣高校 2 年生)

16:20 閉会

環境省では、水俣病の経験から得た教訓を国内外に伝えるために、平成 8 年度から水俣病経験の普及啓発セミナー事業を実施し、平成 15 年度からは特に教育関係者、環境・教育を学ぶ学生等を対象としたセミナーを開催しています。

本年度は「水俣病の経験を引き継ぐために」をテーマとして、語り部による講話、水俣病で被害を受けた方や障がいを持つ方が、それぞれの思いや夢を詩に託し、曲を付けて歌う「もやい音楽祭」受賞作品の披露、次世代に語り継ぐための新しい取組み「朗読」もしていただきます。パネルディスカッションでは、今後どのように水俣病の経験を引継いでいくかを語り合います。ぜひ、ご参加ください。



語り部紹介

敬称略



杉本 肇（水俣市立水俣病資料館）

1961年1月18日生まれ。水俣病患者家族。母は杉本栄子さん（2008年死亡）。家族が水俣病になったときのこと、子どもの頃の生活、都会に出て水俣に帰ってきたこと、自分の身体の調子などを語る。漁業を営み無添加のいりこなどを販売。2008年5月から水俣病資料館の「語り部」となる。水俣市袋在住。



小武節子（新潟県立環境と人間のふれあい館）

1936年新潟市生まれ。1957年、新潟市津島屋に嫁ぎ、義母の実家が網元だったので毎日のように魚を食べた。1973年に水俣病の認定申請するが、1975年に棄却。1982年、新潟水俣病第二次訴訟の原告となる。2001年、新潟県立環境と人間のふれあい館の開館と同時に語り部となる。

もやい音楽祭受賞作品披露

敬称略



坂本しのぶ（胎児性水俣病患者）

第1回もやい音楽祭受賞作

『これが私の人生』

作詩者



加賀田清子（胎児性水俣病患者）

第10回もやい音楽祭受賞作

『私の大好きなおかあさん』

作詩者



柏木敏治 うた・ギター

『これが私の人生』

作曲者



山下貴代美 うた・ピアノ

『私の大好きなおかあさん』

作曲者

一般社団法人水俣病を語り継ぐ会

「水俣病を語り継ぐ会」は、40代半ばまで「自分の生まれた地域のことを隠し、水俣病でなくした肉親のことを語れない苦しみを長い間体験した」吉永理巳子代表の想いから始まる。2012年に結成し、現在賛助会員20人程度。

水俣病患者や市民の経験を記録するとともに「次世代の人々が表現する手法としての『朗読』」に取り組んでいる。また、小中学校の子どもたちに水俣病を伝えるための教材『水俣の箱』づくりや授業プランの開発に、教員や教育委員会、水俣病資料館と連携して取り組んでいる。

参加申込み方法

ホームページ (<http://www.epc.or.jp/>) の参加申し込みフォームもしくは、FAX、メールにて、氏名・郵便番号・住所・電話番号を記載の上、お申し込みください。

お問い合わせ・参加申込み先
一般社団法人環境パートナーシップ会議
東京都渋谷区 5-53-67 コスモス青山 B1F
TEL : 03-5468-8405
FAX : 03-5468-8406
URL : <http://www.epc.or.jp/>
E-mail : info@epc.or.jp
担当：島田・伊藤

【交通案内】

・渋谷駅（JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線）
宮益坂口・徒歩12分

・表参道駅（銀座線・半蔵門線・千代田線）B2出口・徒歩7分

